

# 空と山と アイロンと

エクストリーム・アイロニング・ジャパン代表 松澤等

河合由紀子

これは、過酷なフィールドでアイロンがけをする「エクストリーム・アイロニング」に魅せられた一人の男の物語である。

どこまでも青い空。眼下に街が小さく見える。山頂の空気は冷たく、風が鼻先を冷やす。日差しは肌を焼くように強く照りつける。乾いた岩肌の上にアイロン台を置く。アイロンをコンロで暖める。そして、ゆっくりとシャツにアイロンをかける。スチームが柔らかな暖かい。

エクストリーム・アイロニングはイギリスで生まれたX（エクストリームの略）系のスポーツで、山や海など自然の中で行うアイロンがけのこと。ロッククライミングやカヌー、スキューバダイビングなどのスポーツをしながらアイロンがけを行うこともある。

山の中のアイロンがけ。その光景は奇妙に映るかもしれない。

「たまたまアイロンだった」

「お待たせしてすみません」

松澤等さんは約束の時間きっかりにあらわれた。鍛えあげられた太い腕。飾り気のないTシャツ。アイロンをかけたばかりのシャツのように清潔感にあふれている。

「ほくにとってはたまたまアイロンだったんです。あくまでも、メ

インはそれぞれのスポーツや自然環境を楽しむこと。日常のアイロンがけでシワを伸ばす気持ちよさや、満足感、癒しを感じていました。登山などのアウトドアスポーツが好きで。大好きな日常を大好きなフィールドに持って行ったってこと。スポーツなどで得られる達成感に、アイロンがけの心地よさをプラスしてさらなる満足感を得ようとしているんです。変わったやつだと言われますが、ほくにとってはふつうのことですよ」

高校卒業後、オーストラリアに留学した松澤さん。ホームステイ先は一人一台アイロンをもつほどの、アイロン大好き一家だった。そこでアイロンがけの特訓をうけ、習慣となる。大学を卒業後現地で就職し、八年間のオーストラリア生活を経て帰国した。

